2004 年 10 月 16 日　破壊される馬場小室山遺跡

蕨　由美

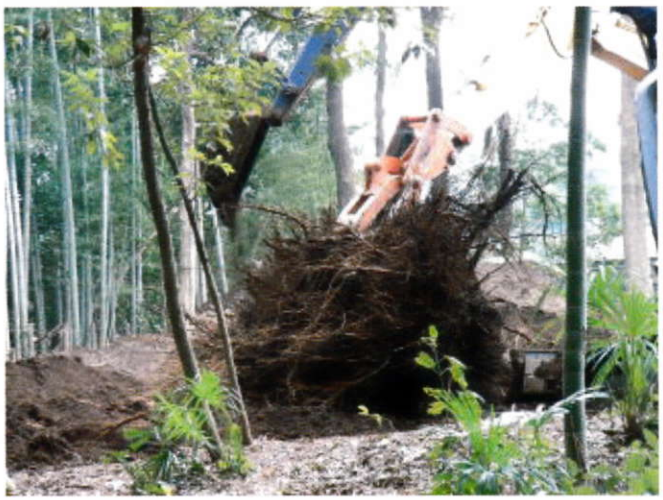
馬場小室山遺跡が調査不十分なまま発掘が終了されるということをインターネットで知り、現地へ急行したのは 2004 年 10 月 2 日の朝でした。発掘調査の「終了」した静かな現場には、住居址が累々と重複し、トレンチの断面には幾層もの堆積が見られ、さらに直径数 m ほどの円い大きな穴の跡がまだ残っていました。遺跡は 10 月 11 日までは、その姿を保っていたようでした。

10 月 16 日土曜日の朝早く、遺跡との再会に心躍らせて私は現地に向いました。ところが 9 時半に遺跡に着いた時、重機と樹木が伐採されるすさまじい騒音が轟いているのです。北側の入り口でガードマンに制止された私は、迂回して南側の小室神社のほうへと向かいました。

2005. 10. 16　AM10：04

未調査の盛土遺構にそびえる大木にもユンボが迫る

破壊された遺物包含層



大木を引き抜いた跡には大きな穴が開き、

そして土器の包含層も一気に破壊されていきました

時折、ドスンという樹木の倒れる地響きに、住民の方が家の外へ出てきて心配そうに森の方を見上げています。　結局、小室神社から藪をかき分けて市有地で作業を見守ることにしました。ここは周りを盛土遺構に囲まれた中央窪地に当たります。

工事は発掘調査済みの遺構を一気に埋め戻し、あろうことか、未調査の盛土の南西部分の樹木を倒す作業にとりかかっていました。樹木の周り径３～４ｍ位を重機で掘り、大木の先端を２台のユンボが引っ掛け、テコのように操って一気に引き倒すのです。樹齢数百年の大樹は深く根を張っていますから、倒された跡には、直径数ｍの巨大な穴が開き、その穴は次の作業の足場の確保のためすぐに埋められます。その技能の手際よさに、ここが遺跡の森でなければ、ただ感心して見とれていたことでしょう。

でも、相手は生きている樹木、しかもここは、夏の間、竹べらでミリの単位で丁寧に削るように掘っていた調査区の延長線上、しかも盛土の頂点部分なのです。

遺構の堆積層、最も貴重な遺物包含層を破壊するという事態を目前に、たった一人の私はただ立ちつくだけで、なすすべもありません。そして、遺跡の最重要部分の破壊というこの現場に、なぜ行政の文化財担当者が立ち会っていないのか、怒りより悲しみが突き上げてきました。

南側の道から　右手は中央窪地の竹やぶ

中央窪地から目の前で 20m以上の高木が倒されていきました

土の中からのいくらでも土器片が・・

そして発掘調査現場は埋められました

この衝撃を誰かに伝えられないのかと思ったとき、携帯電話を持っていたのに気づき、家にいた夫にその現状をしどろもどろに伝え、ＨＰの掲示板に伝言メモを頼みました。昼の休憩を待ち、警備の方に断って工事現場に近寄ると、無残にも大型の土器片が多数散乱しています。

その日の午後、掲示板の伝言に驚かれた鈴木正博さんほか遺跡に心寄せる方々が、現場に駆けつけられたとのこと。馬場小室山は次のステージをむかえました。